

グランピングの新潮流

ボヘミアンなグランピングこそは最高の秘密基地!

【ボヘミアン・グランピングのアイテム】

サキサントの全体のかたちは楕円形である。ノルウェーのサガテントによる。
サイズ：2.5m x 4m および 3m x 6m、中央部の高さは2mと2.5m、出入口部の高さは1.8mと2mの部分あり。
スチールロッド：50mmの垂直ロッドを2本、2ピース式の水平ロッド1本を使用。
重量：各種付属品を含めて約30kg~38kg。価格：NOK 3.850~NOK 4.890 (ノルウェークローネ、税別)
<http://www.sagtens.com>

テントの縁を飾るファブリックは Osborne & Little。テント中央にかかるシャンデリアは Home & Cottage。キャンピングテイベットのデザインは Skovshovden による。提供は Happy on Gardens。ブラックのメタルテーブルとプレート類とクッションは Object etc。提供。左の椅子の上のピローは Home & Cottage 提供。右側の椅子に置かれたピローは Osborne & Little の生地で作られたもの。キャンピング用ベッドは Home & Cottage 提供。メタルのキャンドルホルダーは Cozy Room 提供。テント正面の両サイドにあるフラワーポットは Home & Cottage 提供。

注目のグラマー+キャンピングに個性派登場!
精神を自由に遊ばせる空間こそがグラマラス。
この上なく心が満ちてくるグランピング拠点になる。

文と構成/モノ・マガジン編集部

野遊びの拠点は、なにとはともあれまずテントだ。テントのスタイルが定まれば、キャンプファニチャー選びは難しくない。椅子に背もたれ付きシート、サイドテーブル、ランプと必要なものを集めればいい。そこで選んだモノや道具

は、ライフスタイルアクセサリーになる。ここでいうアクセサリーとは、けっして外見を飾るものではない。言葉を使わずに人間の中身を伝える仕事を任されたツールのことだ。このポイントさえ押さえれば、グランピングをまるごと

楽しめる。そもそも、キャンプで使うファニチャーと道具は、体積を減らすプライム戦略に則りつくられている。どれもこれも「大きく使って、小さくしまえる」仕掛けに満ちている。それだけで最高にワクワクする。

© Nordstrom, Annette/living4media / amanaimages

外遊びと小屋と野営「キャンプ」の楽しい関係

話題のグラランピングの始まりはこんなだった！

「ヘミングウェイ先生、
それってグラランピングですよね！」



A&Fのカタログではキャンプファニチャーに分類されている折りたたみ式洗面器を使うヘミングウェイ。アフリカへの狩猟旅行にて。1954年のアフリカ行きでは、結局は誤報と判明するが、「ヘミングウェイ、アフリカに死す」というニュースが世界各国に流れた。



世界が注目する



イギリス 小屋 コンテスト

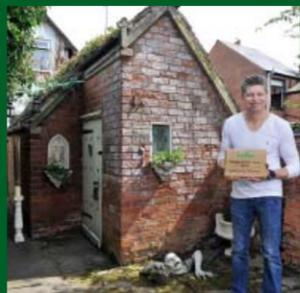
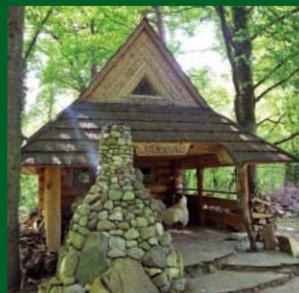


勝利小屋から見えてくる
100%混じりっけなしの小屋エクス
建てるアイデア、インテリア、デザインのアイデアがいっぱい



イギリスで毎年、国民が楽しみにしている小屋コンテストでは、一般のネット投票で各部門の優勝候補がそれぞれ4組決定し、その中から優勝者が決まる。さらに、優勝者の中からその年の総合優勝者が決定する。総合優勝者が手にするのは1,000ポンドの賞金と優勝プレート、100ポンド相当のスポンサー商品、小屋を飾る巨大な王冠。英国ナンバー1の小屋を目指して、今日も大勢の小屋ビルダーがしのぎを削る! 今回は2016年、2017年の優勝者を一挙にご紹介しよう。

構成・翻訳/伊藤浩子 Photo/Courtesy of Cuprinol





東京ではじめてオリンピックが開催され、アメリカでは初代マスタングがニューヨークの万国博覧会で初お目見えしたのが1964年。この年にオハイオ州 ジャクソンセンターにあるエアストリーム の工場から出荷された19フィートモデル「グローブ Trotter」。日本の陸地を踏むまで、どこでどんな風景を見てきたのか。これまでどんなオーナーのもとで使われてきたのだろうかと思いを巡らせたいのはヴィンテージの世界共通のお楽しみだけれど、驚くべきは程度のよさ。ジュラルミンのパネルも、それらをつなぐリベットにはほころびひとつない。ストライプ柄が可愛らしいサイドオーニングだって当時のオリジナルというから驚きだ。パネルの継ぎ目に残ったわずかな磨き残し跡。マーカーをつたってできた雨跡。ヴィンテージデニムでいうところのヒゲやアタリを楽しむことができるのは、航空機にも使われるジュラルミン素材を存分に使った古き良き時代のトレーラー、エアストリーム ならではの。



「まあるくてノッポな小屋」 づくり

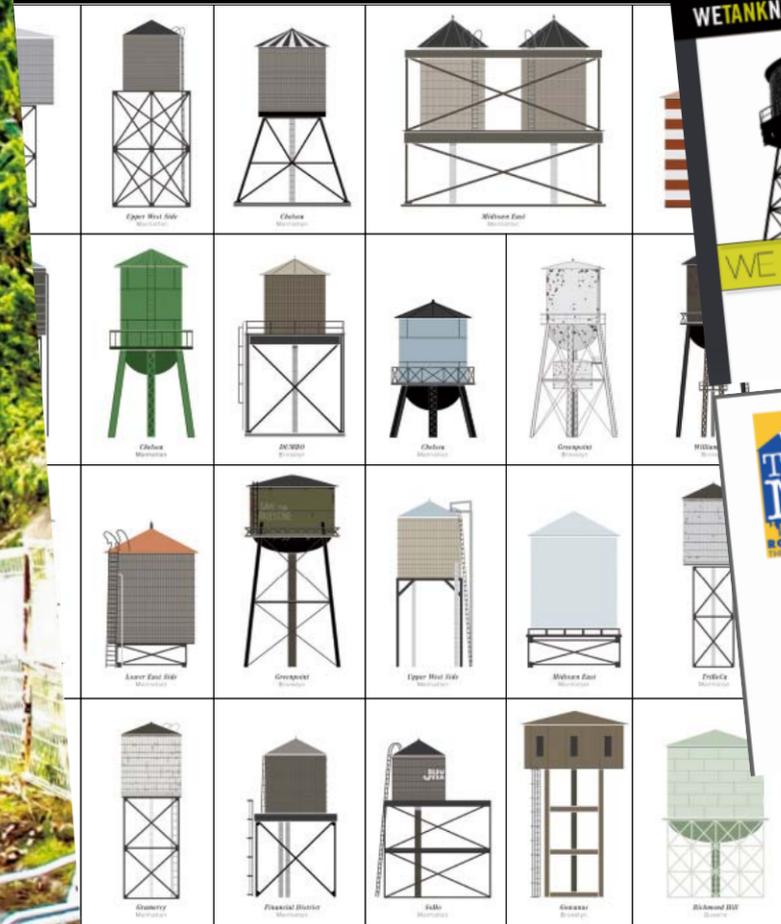
手本はNYCの屋上水槽だ!

ニューヨークの空をひっかいているノッポのビル群たち。ややそこから視線を下げるとビルの狭間になにやらポツ、ポツと丸い物体がある。ウォータータンク、水槽である。これがなんと木でできているのだ。21世紀の超モダンな大都市の空に鎮座する構である。この存在に、モノ・マガ編集の小屋づくり担当は、ピンときた。その後にするべきことは、タンク探しと腕まくりだけである。

文と構成/モノ・マガ編集部 Photo/Kesaharu Imai, Shutterstock.com, Images courtesy of Rosenwach Group

屋上のふちにいる木製の水槽にピンときた!

小屋づくりのノウハウの一つに「転用の小屋」がある。本来の用途とはちがうけど、小屋の躯体に使えと閃いたら、それを拝借するのである。世の中にはそれが結構、ごろごろしているのだ。列車、バス、乗用車などの乗り物は、出入口が最初から完備して小屋里に転用する際にグッド。土管は組み合わせ次第で、利用価値が高い。同じくタンクに樽に桶もこの部類に入る。



ニューヨークでビルの屋上に設置する水槽を制作しているローゼンワック社。高置水槽に木の桶が使われている利点を熱く語る。

ニューヨークは都会のなかの都会。現代都市の最先端に行く。スマートさを身上とする町を象徴するのは、超高層ビル群が描き出すスカイラインである。そんなモダンさと、あきれられるほどの豊かさ、そして危険をはらんだ面がクローズアップされるニューヨークにあって、「えっ」と足を止めてしまっほどのギャップに遭遇することがある。それは桶である。しかも木製だ。水を貯めるために置かれている。金魚が泳ぐのが水槽だが、ニューヨークの水槽は木製でビルの屋根の上に据えられている。こうした水槽が1万基以上も、ニューヨークにはあるという。金属槽にくらべて木製なら錆びない。弱酸性、弱アルカリへの耐久性も期待できる。ただし、新陳代謝が必要。毎年、400基程度の水槽が新しいものに置き換えられているという。

木製というと、前近代的な響きがあるが、ランニングコストを含めた経済面での利点は大きい。木製でも金属製でも、どちらも衛生面と保守管理は必要になる。板の厚みが約68mmある木桶は、金属製にくらべて断熱性に優れている。ガラスのように紫外線が透過しないので、藻が発生しにくい

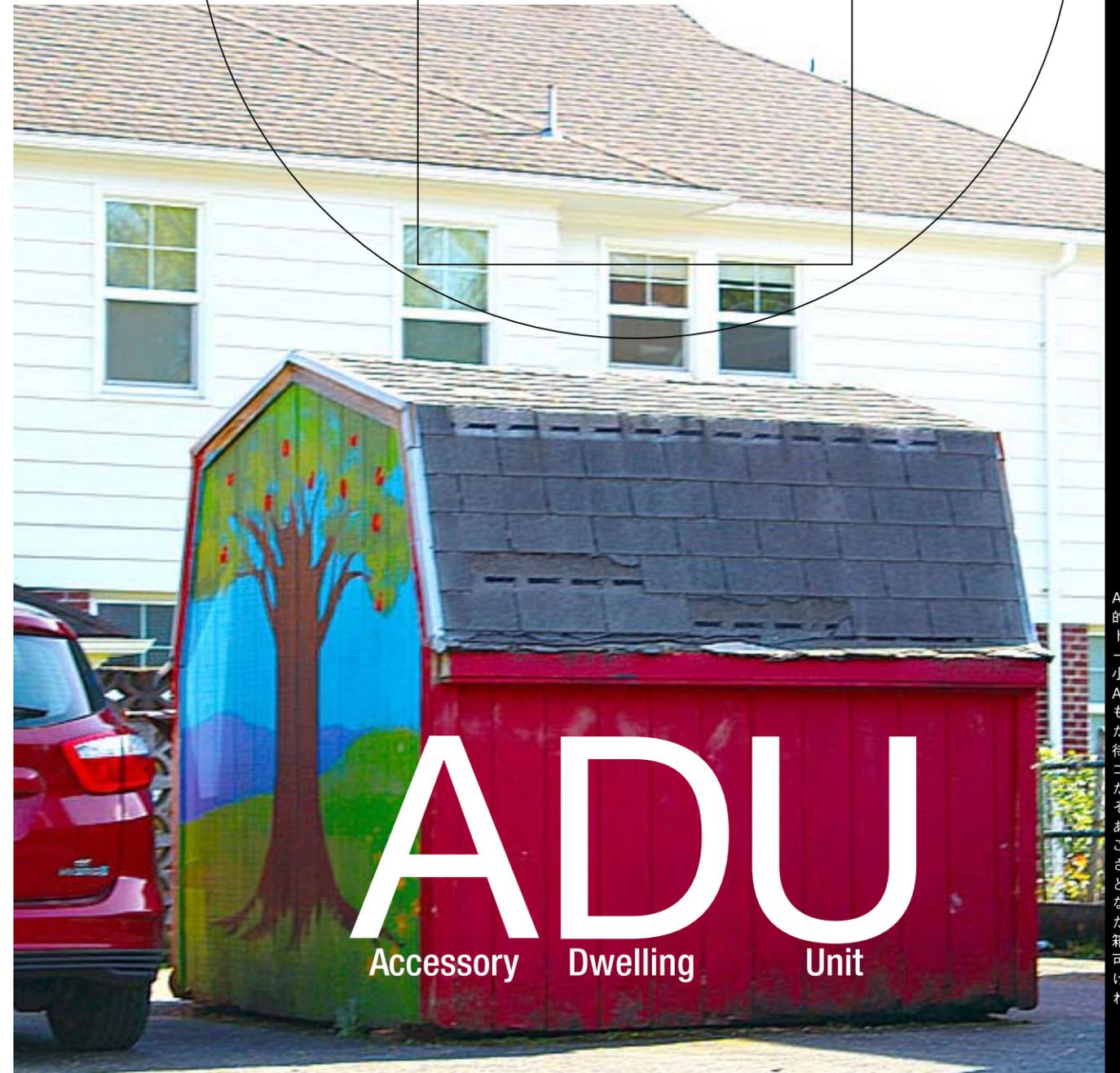
裏庭で始まっているちっちゃい家革命

BACKDOOR REVOLUTION

アメリカ人だって、きっとだれもまだ知らない!

小さいだけの狭小住宅、素朴感が売りの小屋は、もう時代遅れ。
常に住みたい町の全米トップ入りをして、注目を集めるポートランドでは狭小住宅への意識も高い。
この町をADUの聖地にしたコル・ピーターソンは「真の豊かさ」がある暮らしへの提言を投げかける。

Photo/Kol Peterson, Burks Mikako Text/Burks Mikako



ADUとは「付属的住居ユニット」のことで、ポートランドは狭小住宅およびADUの聖地ともいうべき町。だが、ちょっと待った! リンゴの木が描かれたこの小屋は、そのどちらにもあらず。なんとこれはゴミ箱。さすが、お洒落とアートに敏感な若者が多い町だけあってゴミ箱すらこんなに可愛く仕立て上げてしまうこだわりには驚きだ。



元祖断捨離の巨匠ヘンリー・ソロー

「ソローの小屋と椅子たち」

ソローは

なぜ小屋に

3つの椅子を

用意したのか

ソローによる説明によればこうなる。ひとつは自分が座る。

2脚目は「フレンドシップ」の椅子とある。

友だちが訪ねてくる時のために用意されていたわけだ。

3脚目の椅子の説明で虚を突かれた。その椅子は「ソーシャライズ」用。人つきあいに欠かせない道具として用意されていたのだ。

構成と文／河村喜代子



いきものがかり
山下穂尊 × 小屋語り



小屋を建てる前に知る、法的ABC

個遊空間的な愉しみを味わえるのは、「小屋」の大きな魅力のひとつ。自分だけの趣味の世界を築くもよし、友人や家族とちょっとした団らんのスペースをつくるもよし……。だがちょっと待った！ 小屋といえども、「建築物」の要件を満たせば、おかみとの約束事を守らねばならぬ……。ということで、ここでは小屋を建てる前に知る、法的ABCをチェックしてみる。

Column
防火地域、準防火地域とは？
 都市の主要地域や駅前、幹線道路沿いなど、火災時に大きな被害が予想される地域は、建物の構造を制限して防火機能を高めることが求められている。防火地域内での建築制限だが、延べ面積が100㎡以下の場合、地階を含む2階建て以下の建築物については耐火建築物または準耐火建築物でなければならない（一般的な木造建築は不可）。防火地域の外側に比較的広く定められた準防火地域では、規制は多少緩やかになる。地階を含む2階建て以下、延べ面積500㎡以下ならば、一定の防火措置をしたうえで、木造建築も建てられる。



建築確認申請の有無、チェックポイント

小屋をつくるときにまず気をつけたのが、「建築確認申請」の有無だ。これは建築基準法などに適合しているかを審査するもの。しかし、この基準は地域や土地により異なる場合が多々あるので、実際には専門家や地元自治体に相談しながら進めよう。ここでは大まかなポイントを述べていく。

●小屋を建てやすいエリアを知ろう

日本の国土、とくに人が多く住む「都市」と呼ばれるエリアには、無秩序な建設や開発などが行なわれないよう、厳しいルールが定められている。いわゆるメジャーな都市部に新しい土地を買って小屋を建てるのはなかなか難しいのが現状だ。まずそのあたりを理解するため、知っておきたいのが都市計画区域、準都市計画区域、都市計画区域外というエリアの存在だ。

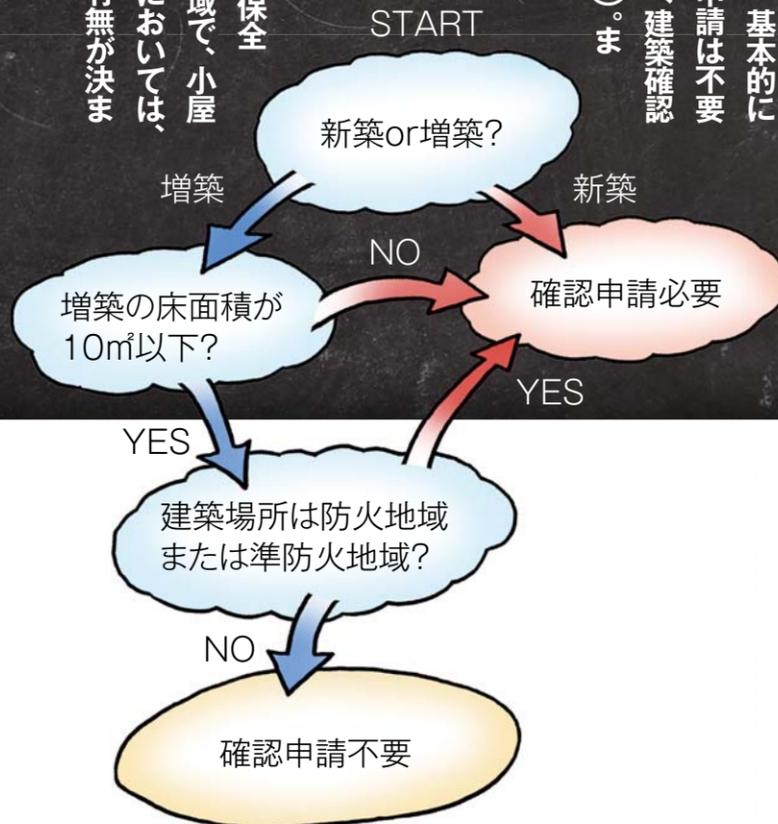
都市計画区域（以下、「都市」とは「一休の都市として総合的に整備し、開発し、および保全する必要のある地域」と現行法で定められており、

原則都道府県が指定する。今後、都市としての発展が見込まれる地域で、ゆえに小屋ひとつ建てるにもルールの適合が要求される。これに比べて都市計画区域外（以下、「都市外」）のエリアでは、「都市」ほど細かなルールがなく、基本的に小屋レベルの建築物ならば建築確認申請は不要だ（昨今では地域によって例外もあり、建築確認申請が必要な場合も少なくないらしい）。また、小屋も建築物である以上、建築基準法を無視してはならない。「都市外」にいい土地が見つかったからといって、何を建ててもいいというわけではないことは肝に命じるべし。

一方、準都市計画区域（以下、「準都市」とは、「都市」での開発を将来的に保全するために、都市開発が抑制された区域で、小屋を建てる場合、「都市」と「準都市」においては、以下の条件により、建築確認申請の有無が決まってくる。

●小屋建築の条件

さて、それでは都市計画区域、準都市計画区域での小屋建築の条件を確認してみよう。まず建築確認申請の必要性は、小屋を新築するのか、あるいはすでに所有の土地に増築す



イラストレーション/M. ケリー

